

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 9月26日

【評価実施概要】

事業所番号	3290100068		
法人名	社会福祉法人 聖徳福祉会		
事業所名	グループホーム ひさご苑		
所在地	島根県松江市浜佐田町125 (電話) 0852-36-4321		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成20年9月24日	評価確定日	平成20年10月28日

【情報提供票より】 (平成20年 9月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 10月 12日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 10人, 非常勤 4人,	常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物構造	WRC 造り		
	2階建ての	1~2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (200000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 140 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (9月15日現在)

利用者人数	16名	男性 2名	女性 14名
要介護1	5名	要介護2	6名
要介護3	3名	要介護4	1名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 86.1歳	最低 76歳	最高 93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松江赤十字病院・小松クリニック・泉胃腸科医院・多田歯科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者・管理者の交代や職員の異動等が続いていたが、今年度に入り職員も安定しはじめ、いろいろなことに落ち着いて取り組める環境となった。管理者は「安心感を持ってもらえる」ケアを目指しており、利用者は童謡を歌ったり、新聞を読んだり、ユニット間でお茶会を開いて交流する等、本人の意向やペースが尊重され、ゆったりとした生活を送っている。職員の定着や地域との連携に本格的に取り組もうとしているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4) ①地域密着型サービスとしての理念 ②馴染みながらのサービス利用③事業所の多機能性を活かした支援④本人と共に過ごし支えあう関係等の課題が改善されている。他の改善課題もあるが職員間の話し合いの場が少なく、具体的な取り組みはこれからである。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 自己評価、外部評価活動の意義や目的を職員に伝え意見を聞きながら管理者がまとめた。出された意見も少なく、改善に向けての職員同士の検討時間も少なく、計画的な取り組みとなっていない。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 今年度は6月に開催した。利用状況、活動の様子、外部評価結果等を報告し、災害対策マニュアルや地域交流・介護相談員の派遣等について検討され、地域や市介護保険課職員から助言を受けている。内容を運営に活かすのはこれからである。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 意見箱を設置したり、家族アンケートや交流会で意見を聞くようにしている。率直に意見を出される家族もいるが、概して意見は少なく、運営に活かすまでに至っていない。家族に向けたよりの発行は定期化されていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 地域との交流は利用者が運動会に参加したり散歩時に挨拶を交わし交流しているが、振興住宅地にあり、自治会にはまだ加入していない。市の助言から、ホームや認知症を理解してもらうための「広報活動」が考えられている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で話し合い、地域密着型サービスの内容を盛り込んだものに作り直し、事業所独自の理念として掲げている。	○	運営規定は法人で管理されている。重要書類等は事業所にも配布し、日常的に規定に基づいた管理運営を心掛けて頂きたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホール等に掲げている。日々のケアや全体会議での振り返りや確認の場が少なく、職員間の共有は不十分である。	○	職員も定着しつつあり、「振り返り表」等の活用や日々のケアの場面を通じ、理念の共有を図って頂きたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	新興住宅地にあり、地域との日常的な交流やボランティアの出入りも少ない。自治会には加入していないが、地区の運動会の応援等には参加している。	○	地域の諸行事に積極的に参加するとともに、計画されているホーム内の催し物にも出席を呼びかける等、地域との交流に意識的に取り組んで頂きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を職員に伝え自己評価に取り組んだが、職員からの意見は少なくみんなで検討したものとなっていない。	○	定期的に話し合う時間や管理者を補助する体制の確保が望まれる。複数の指導体制により、評価結果をもとに課題の改善に具体的に取り組んで頂きたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は6月に開催した。利用や活動状況、外部評価等を報告している。災害対策マニュアルや地域交流・介護相談員の派遣等が検討され市の介護保険課から助言を得ている。	○	二ヶ月に一回の開催を目指して頂きたい。運営者が参加することで会議の内容やホームとして取り組むべき課題を職員と共有されるよう期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外、双方の行き来や相談は行っていない。	○	ホーム側から積極的に困難事例等の相談をする等、関わりを強めて頂きたい。また、地域密着型における市の役割についても確認しあい、相互でのサービス向上に取り組んで頂きたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	訪問時に日常生活の様子や健康状態・金銭出納等を報告している。状態変化した時や遠方の家族には手紙や電話で報告連絡しているが、たより発行は定期化していない。	○	たよりを通し、ホームの諸行事や理念・職員の異動状況をはじめ、個々の利用者の生き生きとした様子等を伝え、家族との共感や連携をさらに強めて頂きたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを実施したが回収率は低かった。家族を交えたクリスマス会やゲーム・食事会等で要望等を聞く機会を作っているが出される意見等は少ない。	○	出された貴重な意見や要望に丁寧に応えることを通じ、家族からも本音の意見が引き出されると捉えて頂きたい。さらなる工夫を望む。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	家族からも職員の異動が多いとの意見があったが最近落ち着いてきた。新人職員が独り立ちするまで、経験者が付き添って援助したり、利用者きちんと紹介する等、ダメージ防止策を取っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が定着化しつつあり外部研修の参加機会も多くなり伝達も行っている。ホーム内でも学習を実施しつつあるが、段階に応じた計画的な取り組みはこれからである。	○	継続した職員育成となるよう、ホーム内外の研修の機会をさらに確保して頂きたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム部会や研修会を通じて、記録や書類の書き方について交流した。相互訪問活動はこれからである。	○	今、考えられている相互に協力相談できるネットワーク作りや事業所相互の訪問活動を実現し、互いのサービス向上に取り組んで頂きたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に家族や利用者に見学してもらったり、職員が利用者宅を訪問して直接状況を把握して馴染みの関係をつくる等、スムーズなサービス利用となるよう心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物をたたんで各利用者の居室に分配したり、新聞紙でゴミ袋を作ったりと利用者の力を引き出している。職員は利用者から「即座に出る感謝の言葉」に癒され学んでもいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族にフェイスシートに記入してもらい、利用者の全体像や希望意向を把握している。毎日の暮らしの中でも触れ合いの時間を多く持ち思いを知るようにしたり、家族からも追加情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の思いや意見を取り入れ原案を作成し家族に提案しているが、率直な意見は出ない。利用者の生活歴や趣味等、個別性を取り入れたものとなっていない。	○	家族や利用者の参加するケア会議の定期的開催や職員の気付きや利用者の個別性を組み入れたケア計画の作成が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に変化があれば見直しているが、モニタリングは十分できていない。	○	ケア会議やユニット間会議の定期的開催を望む。職員全員で計画を検討したり確認し合って頂きたい。管理者を補佐する体制や管理者業務の保障が急がれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算を取得し、利用者の健康管理に留意している。受診はほとんど職員が同行し、葬儀や法事等の特別な外出も家族と相談しながら支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望するかかりつけ医となっている。往診も基本的に主治医が行っている。受診に際し、事前事後に情報交換が行われ医師との連携も取れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医や家族等と重度化した場合にホームでできる範囲や医療面の対応を話し合っている。入院するケースが多く今まで看取りの経験はなく職員は不安を持っている。	○	重度化や終末期の対応について、家族や利用者の要望を引き出しながら医師等関係者と話し合い、ホームとしての準備や職員間の意思統一を図って頂きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室の入室時にノックして言葉をかけたり、不快な思いを持たれないような言葉かけに心掛けている。個人情報の取り扱いの教育をしたり、記録類も戸棚で保管管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日散歩に出かける人がいたり、ホールで歌を歌ったり、新聞を読んだり、お酒を飲んだりと利用者の体調やその時々意向やペースに合わせて支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の皮むき等利用者の出来る力を引き出し、一緒に行っているものもあるが、調理や盛り付け、片付け等は職員が行っている。職員は休憩時間も兼ね、別の場所で食事している。検食は現在行っていない。	○	ホームにおける「食事」の位置づけを運営者とともに再確認して頂きたい。利用者が職員とともに買出しや調理や片付けを行ったり、一緒に同じ食事を食べる等、大幅な見直しと工夫を望む。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に沿って、ゆったりとくつろいだ入浴支援に心掛けているが、夜間入浴希望はなく、一週間に2～3回の入浴となっている。	○	声掛けや要望の聞きだし、体制や業務の工夫で、回数等の見直しを図って頂きたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	居室の掃除や洗濯物の取り込み、野菜の皮むき、お絞り縫い等、利用者に役割を持ってもらったり、童謡を歌ったり、ユニット間でお茶会を開いたり、ドライブに行く等楽しみごとへの支援に力を入れている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候によりホームの周辺を散歩したり、地主の作っている蕎麦や麦の花を見に出かけている。ドライブや誕生会のケーキ買い等に出ているが外出頻度は少ない。	○	ホーム専用車もできたこともあり集団での外出をはじめ、個別の希望を取り入れた外出支援にさらに期待したい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵をかけていない。自由な暮らしができるよう利用者の見守りに努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年は避難訓練を一回実施した。今年は10月に予定している。備蓄品の確保もこれからである。	○	避難訓練の計画的な実施と職員単独の通報訓練や消火器・消火栓の使い方等日頃から修練して頂きたい。また3日分の備蓄品も確保して頂きたい。地域との協力体制の検討も望みたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分摂取について把握記録されている。状態によりミキサー食等食事形態の工夫や家族に差し入れをもらっている。	○	併設の保育所の栄養士の協力を得て、献立チェックをして頂きたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの窓は大きく外が見渡せゆったりとした空間であり観葉植物が置かれ、テーブルには季節の花が飾られている。週刊誌や雑誌も置かれ心地良く過ごせるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた椅子やテーブル・ベッド・装飾品が持ち込まれたり、写真や花等で飾られている。利用者が写真を見ながら娘の活躍の様子を生き生きと語っていた。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。